

## 浄土宗問答

問ふ、六字の名号は善悪の中には何れぞや。答ふ、一義に云はく、今問ふ所の善悪は世・出の中には何れぞや。一義に云はく、云ふ所の善悪を治定せばだごく墮獄治定なるか。一義に云はく、名号悪と治定せばむけん墮獄と治定して其の上に善悪を尋ぬるか。一義に云はく、汝が依経は権実の中には何れぞや。

問ふ、念仏無間と云はゞ法華も無間なり。答ふ、一義に云はく、法華無間とは自義なるか、経文なるか。一義に云はく、念仏無間をば治定して法華も無間と云ふか。一義に云はく、祖師の謗法を治定して法華も無間と云ふか。一義に云はく、汝が云ふ所の法華は、超過の法華か、又弥陀成仏の法華か。

問うて云はく、念仏無間の証拠、二十八品の中には何れぞや。答ふ、一義に云はく、二十八品の中に証拠有らば墮獄治定なるか。一義に云はく、法華を誹謗するを証拠とするなり。一義に云はく、法華の文を尋ぬるは信じて問ふか、信ぜずして問ふか。一義に云はく、直ちに「あびごく入阿鼻獄」の文を出だすなり。一義に云はく、妙法蓮華経其の証拠なり。一義に云はく、弥陀ほんぜいの本誓に背く故なり。一義に云はく、弥陀の命を断つ故なり。一義に云はく、有縁の釈尊に背く故なり。念仏無間は三世諸仏のはいりゅう配立なり。

問ふ、止観の念仏の事。答ふ、一義に云はく、ほうねん法然所立の念仏は墮獄治定して止観を問ふか。一義に云はく、西方の念仏と一なるか、異なるか。一義に云はく、止観の念仏は法華を誹謗するか。一義に云はく、彼に文段を問ふべし。一義に云はく、止観に依って浄土宗を建立するか。

問ふ、かんぎょう観経は法華いご已後の事。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗するか。一義に云はく、已前ならば無間は治定なるか。一義に云はく、汝が謗法は無間をば治定して問ふか。

問ふ、観経と法華と同時なり。答ふ、一義に云はく、同時なる故に法華を謗するか。さては返って観経をも謗するなり。

問ふ、先師の謗法は一往なり。しばら且くしの字を置く故なり。答ふ、一義に云はく、且く謗ぜよとは自義か、経文か。一義に云はく、始終共に謗せば墮獄は治定なるか。

問ふ、「未顕真実」は往生に非ず、成仏の方なり。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗するか。一義に云はく、余経は無得道と云ふ人はひがごと僻事か。

問ふ、法華本迹の阿弥陀をば如何。答ふ、一義に云はく、法華の弥陀は法華経を謗せ

んと誓ひ給ひしか。一義に云はく、法華の弥陀と三部経と同じきか、異なるか。異ならば無間治定なるか。

問ふ、「一称南無仏」と。何ぞ称名しょうみょうを無益と云はんや。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗ずるか。一義に云はく、法華を信じて問ふか、信ぜずして問ふか。

問ふ、法華に「諸もろもろの如来に於て」「諸仏を恭敬す」と。何ぞ弥陀を捨つるや。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗ずるか大旨上の如し。

問ふ、「余の深法の中に於て、示教利喜す」と。何ぞ余経を謗ずるや。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗ずるや。一義に云はく、汝が誹謗は治定して問ふか。又自義か経文か大旨上の如し。

問ふ、普門品に觀世音の称名功德を挙ぐと見えたり、何ぞ余の仏・菩薩を捨てんや。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗ずるか。一義に云はく、此の觀音は法華を謗ずるか。一義に云はく、此の品に依って念仏を立つるか。私に云はく、彼が経文・釈義を引かん時は、先づ文段を一々問ふべし、大段万事の問ひには誹謗の言を先とすべし。前の当家の義云云。

#### 禅宗問答

問ふ、禅天魔の故、如何いかん。答ふ、一義に云はく、仏經に依らざる故なり。一義に云はく、一代聖教を誹謗する故なり。

問ふ、禅とは三世諸仏成道の始めは坐禅し給へり如何。答ふ、一義に云はく、汝が坐禅は仏の出世に背かば天魔治定なるか。又、坐禅は大小の中には何れぞや。一義に云はく、仏の端坐六年は法華に無益と云ふか。

問ふ、禅法には仏説無益なり。答ふ、一義に云はく、是これ自義なるか、経文なるか。一義に云はく、やがて是が天魔の所為なり。

問ふ、経文には「是の法示すべからず」と如何。答ふ、一義に云はく、此の文は法華無益と云ふ文なるか。一義に云はく、爾らば法華に依るか。一義に云はく、文段を以て責むべきなり。

問ふ、竜女りゅうにょは坐禅の成仏なり、其の故は経文に「深く禅定に入って、諸法りょうだつを了達す」と説き給へり。知んぬ、法華無益と云ふことを。答ふ、一義に云はく、此の義は自義なるか、経文なるか。一義に云はく、若し法華の成仏ならば天魔治定なるか。一義に云はく、文殊海中もんじゅの教化は論説妙法のの宣べたり如何。

問ふ、「常に坐禅を好む。深く禅定に入る。常に坐禅を貴ぶ」とも説けり如何。答ふ、一義に云はく、文段を以て責むべきなり。一義に云はく、此の文は法華無益と云ふ文な

るか。一義に云はく、此の文を以て禅宗を建立するか。

問ふ、「唯<sup>ひと</sup>独り自ら明<sup>みょうりょう</sup>了にして、余人の見ざる所ならん」と云ふ。故に禅宗ひとり真性を見て余人は見ずと云ふなり。答ふ、一義に云はく、文段を以て責むべし。經文を見るべし。

問ふ、像法決疑經に云はく「一字不説」と。爾らば一代は未<sup>しか</sup>顕真実と聞こへたり。真実は只迦<sup>か</sup>葉<sup>しょう</sup>一人、教の外に別伝し給へり如何。答ふ、此の文は仏説か。若し仏説ならば汝此の文に依る故に自語相違なり。一義に云はく、言ふ所の迦葉は何なる經にて成仏するや。一義に云はく、言ふ所の經文は三説の中には何れぞや。一義に云はく、楞迦<sup>りょうがきょう</sup>經は仏説なるか。

問ふ、三大部に觀心<sup>これ</sup>之有り、何ぞ禅天魔と云ふや。答ふ、一義に云はく、汝は三大部にて宗を立つるか。一義に云はく、三大部の觀心は汝が禅と同じきか。一義に云はく、汝は天台を師とするか。一義に云はく、三大部の觀心は諸經を捨つるか。

問ふ、双非<sup>そうひ</sup>の禅の事如何。答ふ、一義に云はく、一度は法華に依り、一度は法華無益なり。一義に云はく、二義共に天魔なり。一義に云はく、此の義に背かん者は僻事<sup>ひがごと</sup>なるか。

問ふ、法華宗は妙法の道理を知るや。答ふ、一義に云はく、汝は天魔を治定して問ふか。一義に云はく、汝は法華を信じて問ふか。一義に云はく、妙法を知って問ふか、知らずして問ふか。一義に云はく、汝が問ふ所の妙法は今經に付いて百二十の妙あり。其の品々を問ふか。一義に云はく、汝は此の妙法に依って禅を建立するか。

#### 天台宗問答

問ふ、天台宗を無間と云ふ証拠如何。答ふ、一義に云はく、法華を誹謗する故なり。一義に云はく、經文に背く故なり。

問ふ、余經無益と云ふ事は<sup>そ</sup>を判ずる一往の意なり。再往の日は諸乘一仏乘と開会す。何ぞ一往を執して再往の義を捨つるか。答ふ、一義に云はく、今言ふ所の開会とは、何れの教の開会ぞや。一義に云はく、今經に於て本迹の十妙の下に各二十の開会あり。亦<sup>また</sup>教・行・人・理の四一開会の中には何れぞや。一義に云はく、能開・所開の中には何れぞや。一義に云はく、開会の後、善惡無しと云ふか。一義に云はく、天台宗は法華を信ずるか。一義に云はく、開会の後、諸宗を簡<sup>えら</sup>ばずと云はゞ、天台大師僻事<sup>ひがごと</sup>なるか。其の故は南三北七云云。伝教大師は六宗と云云。一義に云はく、天台宗は悪行をも致すべきか、性惡不斷と云ふが故に自語相違なりと責むべきなり。一義に云はく、開会の後に権實を立つる人は僻事なるか。爾らば藥王の十<sup>じゅう</sup>諭、法師の三説超過云云。一義に云はく、此の故に開会の心を以て慈覺<sup>じかく</sup>は法華を謗ずるか。一義に云はく、汝は慈覺の弟子なるか。

爾らば謗法治定なるか。

問ふ、善惡不二・邪正一如の故に強<sup>あなが</sup>ちに善惡を云ふべからざるなり、元意の重<sup>これ</sup>是なり。答えて云はく、天台の出世は惡を息<sup>や</sup>めんが為か、又惡を増さんが為か。一義に云はく、惡事を致せとは法華經二十八品の中には何れの所に見えたるや。

問ふ、絶待妙の事。答ふ、一義に云はく、先づ文段を問ふべし。一義に云はく、何れの教の絶待ぞや。一義に云はく、此の故に慈覺は法華を謗するか。

問ふ、相待は一往、絶待は再往と見えたり如何。答ふ、自義なるか、經文なるか。一義に云はく、相待妙一往と云ふは、二十八品の中には何れに見えたるや。一義に云はく、相待妙は法華に明かすか、余經に明かすか。若し法華に明かさば法華は一往なるか。

問ふ、約<sup>やっきょう</sup>教・約<sup>やくぶ</sup>部の故に、約部の日は一往<sup>にぜん</sup>爾前の円を嫌ふなり。答ふ、一義に云はく、言ふ所の約教は天台の判釈の四種の約教の中には何れぞや。一義に云はく、約部は落<sup>らっこ</sup>居の積なるか。一義に云はく、約部を捨つべきか。一義に云はく、約教の時爾前の円を嫌はゞ、墮獄は治定なるか。一義に云はく、約教の辺にて今昔<sup>こんじやく</sup>の円同じとは、法華經の二十八品の中何れぞや。一義に云はく、玄文の第一<sup>せ かい はい</sup>の施・開・廢の三重の故に、開会の後も余經を捨つると云ふ文をば知るか知らざるか。

#### 山門流の真言宗問答

問ふ、法華第一と云ふは顯教の門なり、真言に対すれば第一とは云ふべからず。答ふ、自義なるか、經文なるか。爰<sup>ここ</sup>を以て慈覺大師を無間と申すなり。一義に云はく、真言に対して法華第一ならば亡国治定なるか。一義に云はく、真言は已<sup>い</sup>今<sup>こん</sup>当<sup>とう</sup>の中には何れぞや。若し外と云はゞ、一機一縁の一往にして秘密とは云ふべからざるなり。

問ふ、法華と真言とは理同事勝の故に、真言に対すれば戲<sup>けろん</sup>論の法と云ふか。答ふ、一義に云はく、さてこそ汝は無間治定なれ。一義に云はく、さては慈覺は真言をも謗するなり。其の故は理同の法華を謗する故なり。

問ふ、伝教の本<sup>ほん</sup>理<sup>り</sup>大綱<sup>たいこう</sup>集<sup>しゅう</sup>の文を以て顯密同と云ふ事。答ふ、一義に云はく、此の書は伝教の御作に非ざるなり。一義に云はく、此の書に依って法華を慈覺は謗するか。

#### 東寺流の問答

問ふ、真言は釈尊の説と云ふ事、其の証拠如何。答ふ、若し真言、釈尊の説ならば亡国は治定なるか。若し然なりと云はゞ弘法大師五藏を立つる時、法華を六波羅蜜<sup>ろくはらみつぎょう</sup>經の五藏の第四<sup>はんにゃ</sup>般若波羅蜜藏、第五<sup>だらに</sup>の陀羅尼藏をば真言と建立し給へり如何。

問ふ、真言宗を未顯真実とは言ふべからず、其の故は釈迦の説の外に建立する故なり如何。答へて云はく、若し釈尊の説教ならば亡国は治定なるか。一義に云はく、六波羅蜜經は釈迦の説なるか、大日の説なるか。若し釈迦の説ならば未顯真実は治定なるか。

他の云はく、釈迦所説の顯教無益なりと。尋ねて云はく、六波羅蜜經は顯教・密教の中には何れぞや。他の云はく、六波羅蜜經は雜部の真言なり。我が家の三部は純説の真言なり。答ふ、助証・正証と云ふ事、全く弘法の所判に見えず。若し弘法の義ならば墮獄は治定なるか。他の云はく、真言は速疾そくしつの教、顯教は迂回うゑりやっこう歴劫れきの教なり云云。自の云はく、自義なるか、經文なるか。他の云はく、五秘密經に云はく「若し顯教に於て修行する者、久しく三大無数劫を経る」と説けり。自ら其の証拠なり如何。答ふ、さて此の經は釈迦の説なるか、大日の説なるか。若し釈迦の説ならば未顯真實は治定なるか。

問ふ、法華宗は何れの經に依って仏の印契いんげい・相好そうごうを造るや。顯教には無し。但真言の印を盗むと覺えたり如何。答ふ、之に依って法華を謗するか。一義に云はく、汝盗むの義相違せば亡国は治定なるか。一義に云はく、汝法華宗の建立する所の大段の妙法蓮華經をば本尊と落居して問ふか。一義に云はく、釈尊を三部に依って建立する故に驢牛ろごの三身と下すか。若し爾しかなりと云はゞ、返って汝真言を誹謗する者なりと責むべし。一義に云はく、三世の諸仏の印契・相好、實に妙法蓮華經に依って具足するの義落居せば亡国は治定なるか。又盗人は治定なるか。一義に云はく、竜女りょうぜん靈山に即身に印契・相好具足し、南方に成道を唱へしは真言に依って建立するか。若し爾なりと云はゞ、直ちに經文を出だせと責むべきなり。

問ふ、亡国の証拠如何。答ふ、法華を誹謗する故なり云云。一義に云はく、三徳の釈尊に背く故なり云云。一義に云はく、現世安穩後生善処の妙法蓮華經に背き奉る故に、今生には亡国、後生には無間と云ふなり。一義に云はく、法華經第三の劣とは經文なるか、自義なるか。若し爾らば亡国治定なるか。他の云はく、密教に対すれば第三の劣なり。答ふ、一義に云はく、此の義經文なるか、自義なるか。一義に云はく、顯教の内に法華第一なる事落居するか。若し爾しかなりと云はゞ、さては弘法は僻事ひがごとなり、顯教の内にして法華を華嚴に対して第二、真言に対して第三と云ふ故なり。一義に云はく、真言に対して第一ならば亡国は治定なるか。

他の云はく、印・真言を説かざる故に第三の劣と云ふなり。答ふ、此の故に劣とは經文なるか、自義なるか。一義に云はく、若し法華に説かば亡国は治定なるか。

他の云はく、大日・釈迦各別なり。答ふ、一義に云はく、此の故に法華を謗するか。一義に云はく、若し一仏ならば亡国は治定なるか。一義に云はく、各別なれば劣とは經文なるか、自義なるか。

他の云はく、顯教は応身、密教は法身の説なり。此の故に法華は第三の劣なり。自の云はく、応身の説の故に法華劣とは經文なるか、自義なるか。一義に云はく、法華法身の説ならば亡国治定なるか。一義に云はく、真言は応身の説ならば亡国は治定なるか。

他の云はく、五智五仏の時は北方は釈迦、中央は大日と見えたり如何。答ふ、一義に云はく、中央は釈迦ならば亡国治定なるか。一義に云はく、北方釈迦と云ふ事は三部の内に無し。不空ふくうの義なり。仏説に非らず。

他の云はく、法華は穢土の説なり、真言は三界の外の法界宮の説なり。答ふ、一義に云はく、真言は三界の内の説ならば亡国治定なるか義釈の文。

他の云はく、顕教の内にて大日・釈迦一体と説けども、密教の内にては二仏各別なり。名は同じけれども義異なるなり如何。答ふ、此の故に亡国と云ふなり。一義に云はく、此くの如く云ふ事、直ちに經文を出だすべし。

他の云はく、竜女は真言の成仏、法華には三密欠くる故なり。答ふ、自義なるか經文なるか。他の云はく、經文なり。「陀羅尼だらにを得たり。不退転を得たり」云云。陀羅尼は三密かじの加持なり。答ふ、此の陀羅尼を真言と云ふは自義なるか經文なるか。一義に云はく、さては弘法の僻事なり。其の故は此の陀羅尼を戲論けろん第三の劣と下すなり。一義に云はく、自語相違なり。法華に印有る故なり。

他の云はく、守護經の文に依れば、釈迦は大日より三密の法門を習ひて成仏するなり。答ふ、此の故に法華を謗ずるか。一義に云はく、此の文は三説の内なるか外なるか。一義に云はく、此に相違せば亡国は治定なるか。

他の云はく、法華經には「合掌し敬きょうしん心を以て、具足の道を聞かんと欲す」と云へり。何ぞ印・真言を捨つるや。答ふ、此の故に法華を謗ずるか。一義に云はく、自義なるか經文なるか。一義に云はく、此の故に真言を捨てずとは經文なるか。一義に云はく、此の文は真言たもを持つと云ふ文なるか。一義に文段を以て責むべし。

他の云はく、弘法大師を無間と云ふは、經文なるか自義なるか。答ふ、經文なり。他の云はく、二十八品の中には何れぞや。答ふ、二十八品の中に有らば墮獄治定なるか。他の云はく、爾しかなり。答ふ、法華を誹謗すること治定なるか。若し爾らば經文を出だして責むべきなり。